

1 教育方針及び目標

(1) 教育方針

本県農業の振興方針に基づき、先端技術を活用し、講義、演習、実習を有機的に結合した実践的な学修をとおして、中核経営体や産地の即戦力となる担い手及び地域農業の振興に指導的役割を果たす、創造力と実践力豊かな人材を育成する。

(2) 教育目標（ディプロマポリシー）

教育方針のもと、卒業までに学生に身に付けさせる力は以下のとおりとする。

- ① 就業先の実情を踏まえた実践的な知識・技術の育成
- ② 進展著しい先端技術への対応能力の育成
- ③ 法人の中核を担うための経営管理能力の育成
- ④ 地域の活性化に資する知識・技術の育成
- ⑤ コミュニケーション能力やマナー等の豊かな人間性の育成

(3) 教育計画（カリキュラムポリシー）

教育目標を達成するために、授業科目及び授業時数並びに学年毎の編成を、山口県立農業大学校教育規程別表1のとおりとする。また、授業科目ごとのねらい、教育内容、実施方法、評価方法、担当者等は教育計画（シラバス）のとおりとする。

(4) 求める人物像（アドミッションポリシー）

入学者の受け入れ方針は以下のとおりとする。

- ① 農業に対して強い学修意欲を有する者
- ② 自ら考え、行動できる独創性を有する者
- ③ 共同生活に適応し得る、協調性を有する者

2 学科の目標

大学校の教育方針及び教育目標を踏まえ、次に示す人材育成を園芸、畜産学科の目標とする。

- ① 農業に従事する者として必要な知識・技術を備え、将来、本県農業の振興に貢献する意欲と能力を有する人材。
- ② 農業関連産業に従事する者として必要な広範な知識を備え、将来、本県農業の振興に貢献する意欲と能力を有する人材。

3 令和4年度 学科別の重点取組事項

(1) 園芸学科

ア GAP（適正農業規範）による適切な農場管理に関する学修

JGAPの「農場管理点と適合基準」に基づき、食品安全や環境保全、労働安全の確保、人権・福祉に配慮した労務管理が行えるよう、日々の実習の中で、法令の遵守や農場管理の継続的な改善を通じて、GAPの必要性や手法に関する学修を行う。

イ 経営安定の資となる技術・品目に関する学修

現下の経営環境等を踏まえ、省力化・環境制御・機械化技術、早期成園化技術、低コスト生産技術、減化学肥料・減化学農薬栽培技術、付加価値の高い新品種・オリジナル品目栽培技術等の導入・定着・検証・評価を行う。

(ア) 野菜

- ・環境制御システムを活用したイチゴやトマトの高品質・安定生産の実証
- ・高単価販売をねらったスイートコーンの新たな作型の検証
- ・産官学で共同育成したネギ品種（やまひこ）の安定生産を目指した灌水管理技術の検証

(イ) 花き

- ・県オリジナルリンドウ「西京の初夏」等の高品質栽培の実証
- ・秋出しトルコギキョウの地中冷却や屋根散水による低コスト環境制御技術の検証

(ウ) 果樹

- ・カンキツにおける高糖度化に向けたスマートマルドリ技術の実証
- ・ブドウにおける植物生育調整剤等を活用した新梢管理の省力化の検証
- ・ナシにおける I P M（総合的病害虫・雑草管理）を用いた害虫防除の検証

ウ 多様な販路に応じた実践的な流通販売学修

これまでの取り組みを踏まえ、生産と販売が直結したより効果的な流通販売学修とするため、詳細な生産・出荷計画の策定と事前の企画調整の強化など質的な充実を図る。

(ア) 市場流通

計画生産の推進と卸売市場との連携強化(プレゼンテーション及び情報交換)

(イ) 直接販売（常設販売）

周南市道の駅「ソレーネ周南」、J A防府とくち農産物直売所「とれたて満菜」、幸せますステーション「スマイルほうふ」への計画出荷と直売向け作物等の提案

(ウ) 対面販売（2回/月）

防府市まちなかの駅「うめてらす」、周南市道の駅「ソレーネ周南」での対面販売の充実

(エ) 催事販売

地元催事等での対面販売の実施（アジサイ祭り、防府市農林水産業まつり等）

(オ) 業務販売

土地利用型野菜の計画的な業務用販売の定着（山口農協直販等系統販売）

(2) 畜産学科

ア 経営の基本となる乳用牛及び肉用牛の生産技術の習得

(ア) 哺育・育成技術の習得

- ・高タンパク質・低脂肪の代用乳を用いた強化哺乳と、離乳後タンパク質を強化した飼料を給与する育成プログラムを実践する。
- ・初産分娩月齢24か月を目標とし、生涯生産性の向上を図る。

(イ) 家畜人工授精技術の習得

- ・1年次に家畜人工授精師免許を取得する。
- ・2年次に発情周期の確認や人工授精を実践する。
- ・育種価評価等を理解し交配計画に活用する。

(ウ) 生産目標を設定したプロジェクト学修

- ・毎年、専攻ごとの生産目標を設定し生産計画を作成する。
- ・生産実績から達成度を確認する。

イ 自給飼料生産の実践

(ア) 自給飼料生産

- ・ 1年次に大型特殊及びけん引自動車免許を取得し、操作方法を習得する。
- ・ 飼料用イネのWCSの生産から飼料給与までの栽培・利用体系を実践する。
- ・ 飼料作物の作付けから収穫までを学修する。
- ・ 生産した粗飼料の給与計画を作成する。

(イ) 山口型放牧の実践と活用

- ・ 山口型放牧の牧柵等設置方法や牛の馴致方法を学修する。
- ・ 耕作放棄地対策としての放牧を学修する。
- ・ 放牧を用いた肉用牛経営を実践する。

ウ JGAP（農場HACCP）認証の取得

専攻ごとに生産作業工程及び衛生作業工程を整理し、農場HACCP認証及び、畜産版JGAP認証に向けた取り組みを行う。

エ スマート農業技術の修得

クラウド型牛群管理システムによる牛群管理や、最先端の作業機械等の操作方法を修得し、農作業の効率化や労働生産性の向上に取り組む。